



# 大阪プロバスクラブ

会報 第378号

2023年3月8日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111  
 例会日：2022年7月より毎月第2水曜日 12時～14時  
 ○創立 2001（平成13）年7月9日創立記念式7月16日  
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ  
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ  
 ○会長：有竹正巳 ○幹事：西宮富夫 ○事務局：（幹事宅）  
 〒563-0022 池田市旭丘2-6-25 Tel：090-7496-5096  
 ○会報担当：西宮富夫 [pxi06603@nifty.com](mailto:pxi06603@nifty.com)  
 ○会報ホームページ：<http://osakapurob.exblog.jp/>  
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>  
 （R4年11月の第10回総会で決定された新体制）  
 会長 田中信昭、幹事長 一瀬 明、会計 飯田富美子  
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版  
<http://probuscent.exblog.jp/>

R5年2月始め～R5年3月始めまでの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報第211号	大雪地ビール館にて新年例会（45名参加）楽しい親睦のひとときを過ごすことが出来ました、他
神戸北	3月例会案内	卓話「チャイルド・ケモ・ハウスについて」森田守彦会員、ひとこと「大阪城公園の梅林」森田守彦会員、他
東京八王子	プロバスだより第327号	卓話「はるかなる八王子～縄文時代から戦国時代」八王子郷土資料館学芸員小林史氏、委員会報告（地域奉仕、交流担当、他）、他
奈良	会報第105号	1月度例会報告（漢国神社社務所2階「参集殿」）、「世界最古の舞台芸術能楽」能楽4座（金春流、宝生流、金剛流、観世流）はすべて奈良発祥、他
大阪	会報第377号	近況報告1「最近、難聴のため両耳の手術をした。現在リハビリ中」川端崇且会員、同2「今年の正月、石垣島で過ごした」山下恵司会員、他
北九州	月報5年2月号	令和5年1月新年会、同好会活動1：歴史文学講座、同2：歌をうたう会、同3：日本酒の会、同4カラオケ同好会、モーツァルト・クラリネット協奏曲（竹原英作）、他

今回 第379回 通常例会 2023年3月8日（水）  
 会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

- 大阪プロバスの歌（作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎）
- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時  
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
  - ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ  
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
  - ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気  
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

●『春の小川』作詞：高野辰之 作曲：岡野貞一

春の小川は さらさら行くよ  
 岸のすみれや れんげの花に  
 すがたやさしく 色うつくしく  
 咲けよ咲けよと ささやきながら

春の小川は さらさら行くよ  
 えびやめだかや 小ぶなのむれに  
 今日も一日 ひなたでおよぎ  
 遊べ遊べと ささやきながら

前回 第378回 新年例会 2023年2月8日（水）  
 会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

## ◎第378回 通常例会

- 司会進行：野村尚子会員
- ソング：吉川栄子会員 ●『ウグイス』
- 食事タイム
- 西田隆昭副会長挨拶；有竹会長欠席のため、西田副会長より挨拶がありました。
- 幹事報告：特になし
- 誕生月会員：2月伊丹谷五郎会員



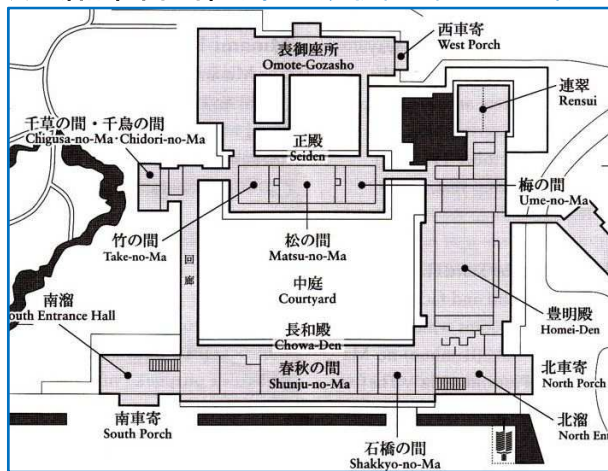
- OH-BOX 担当委員長代理より4名6,000円との報告。
- ★川端崇且（タカアキ）会員：医療補装具（人口内耳）のおかげで、1年ぶりに言葉を聞き取れるようになりました。
- ★野村正勝箕面千里中央ロータリークラブ会長：本日卓話させていただきます。
- ★伊丹谷五郎会員：コロナの終息を願うばかりです。
- ★山下恵司会員：特になし。

## ◎卓話「文科省の一受章者の皇居見学の報告」箕面千里中央ロータリークラブ会長 野村正勝氏

プロバスクラブで卓話として30分話して欲しいと家内に言われて引き受けましたが、写真も撮れない、話もできない、資料もない中でとても話せないのではないかとはじめは思っていました。しかし見学が終わって東京駅に戻ったとき手元に天皇陛下からと言って渡された皇居の写真と御菓子を頂き、やっと喋らせて頂こうと考えました。

それから文芸春秋の昨年9月号に載った前国家安全保障局長の方の論文を読み、私たちの知らないところで天皇ご一家の方々のご苦勞を知り我々国民に思慮が足りないのではと思いました。是非一読をお願いしたいものです。

★皇居配置図一部（野村会長提供配置図の一部）



昨年12月21日夕方携帯に大学から皇居の見学は1月20, 21, 22日に行くがいつがいいですかと言う問いがあり私は最初の日を希望しました。昨年8月8日実施の見学がコロナの蔓延で直前中止となり、そこから7ヶ月ぶりの連絡でした。(中略) (野村さま了承済)

ゆっくりと皇居に入り塔の坂を上り東庭に入り北車寄せにバスは停車。静々と北溜まりと呼ぶホールに入り昇殿する。そこから石橋(しゃっきょう)の間が見える。正面に前田青邨描く能装束の仕手の絵があり両側に紅白の牡丹の絵が見える。(中略)それから私達35人は踵を返し豊明殿に向かう。ここが宮中晩さん会や天皇誕生日の宴会が開かれる部屋で壁に綴れ錦の豊幡雲が浮かび上がる。絨毯の暖色が心地いい。宮中一の広さを誇る。天井には36個のシャンデリアが煌めく。

★豊明殿 (画像引用元 Wikipedia : トランプ大統領を迎えての宮中晩餐会)



(中略) 参殿者の休所の間が千草の間、千鳥の間で万葉集の歌10首の額が掲げられ、扇面散らし屏風が置かれている。(中略) 東山魁夷画伯が精魂を注いだ「朝明けの潮」の壁画は南溜まりのホールから見ると見事である。

私たちはこのホールで集合写真を取り南車寄せからバスに乗りこむ。帰路宮殿に繋がる宮内庁庁舎の古い建物を見ながら陛下ご一家が質実剛健な生活を送られていること、我々ははるかに華美な生活をしていることに気が付いた。間違っているのかもしれないが私は強くそう感じた。

この見学会は本来なら夫婦で訪問予定であったが、コロナウイルスのため令和2, 3年春、秋の叙勲者、褒章受章者本人のみが見学することになったが、夫婦で拝見して初めて意義と詳細が理解できるのだなと思った。

約30年前私も一人のメンバーとして北京へ40名の訪中団に入り北京の人民大会堂の太原のある州が所持する部屋で方毅副首相に会見した時、将にあれが中国の宮殿なのだったと理解した。

はじめに北村滋氏の追想・安倍晋三内閣総理大臣という論文(文芸春秋)を紹介しましたが”安倍首相が提唱した「自由で開かれたインド太平洋」構想が如何に世界にインパクトを与え、どのようにそれは生まれてきたのか”を我々はこれによって推し量ることが出来るのである。



北村滋 (Wikipedia)

◎前国家安全保局長北村滋氏「追想・安倍晋三内閣総理大臣(文芸春秋2022.9)より抜粋引用

(会報担当より:卓話では野村正勝氏が自分の叙勲のため訪れた皇居の様子をお話しいただきました。卓話に出てくる前国家安全保障局長北村滋氏の記事「追想・安倍晋三内閣総理大臣(文芸春秋2022.9)」も提供していただきました。そこで「追想」の中の「自由で開かれたインド太平洋」構想の部分抜粋転記し、外交青書・白書2022とあわせて整理しました。)

★国際情勢 (p143)

アジア大洋州地域には世界の約77億人の人口の約半分が住んでいる。経済規模世界第2位の中国や第3位の日本だけでなく、成長著しい新興国を多く含んでいる。

一方、中国による軍事的台頭、北朝鮮の核ミサイル開発継続など安全保障環境は厳しさを増している。安倍総理は日米同盟を基軸により多くの同志国、友好国と連携を深めていくことが必要だと考えた。後日「自由で開かれたインド太平洋」構想に結実する考えだ。(中略)

**2007年8月** インド国会にて太平洋とインド洋の「二つの海の交わり」と題して演説。

**2012年** (自由民主党が政権に復帰した直後) 安倍総理は論文を発表した。「2007年以降、中国の海軍力増強や領域拡張がこれほどのペースで進むとは予想できなかった。私はオーストラリア、インド、日本、それにアメリカのハワイ州でダイヤモンドを形成するインド洋地域から西太平洋地域に広がる海洋広域を保護するために戦略を構想している」と述べている。

**2014年5月** アジア安全保障会議シャングリラダイアログにて3つの原則を強調した。

原則その1: 国家は何事か主張をなすとき、法に基づいてなすべし。原則その2: 主張を通したいからといって力や威圧を用いないこと。原則その3: 紛争解決に平和的收拾を徹底すべし。

**2016年8月** 第6回アフリカ開発会議TICAD viにて安倍総理は長年育ててきた構想の締めくくりとして「自由で開かれたインド太平洋」の考え方を提唱した。

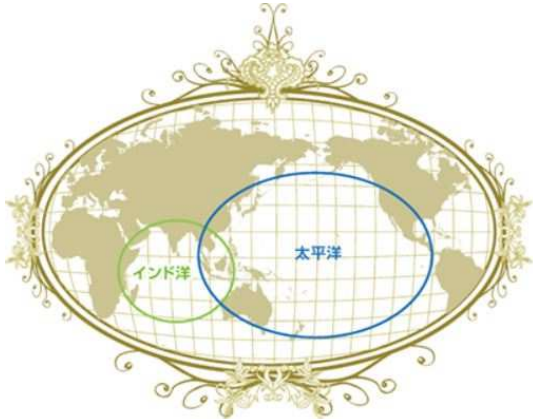
**2020年11月** 私は米軍横田基地の会議室でロバートオブライエン国家安全保障担当大統領補佐官(以下オブライエン補佐官)と会議を持ち、(中略)同年11月の大統領選挙の結果を踏まえ、米国の政権交代期において日米両国の戦略的遺産である「自由で開かれたインド太平洋」構想を如何に維持発展させるか議論した。オブライエン補佐官は引き継ぐと約束してくれた。(一部文短縮)

以上



●文・画像とも外務省「外交青書・白書 2020」より引用

インド太平洋地域において、ルールに基づく国際秩序を構築し、自由貿易や航行の自由、法の支配といった、地域の安定と繁栄を実現する上で欠くことのできない原理・原則を定着させていくこと。これが、「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」という考えの要諦であり、日本は、志を共にする国と連携しつつ、この考えの下での取組を力強く主導しています。



●以下、菊池寛・大衆明治史（上）復刻版（ダイレクト出版）より抜粋引用

（会報担当より：最近、「菊池寛・大衆明治史(上)」を読んで、明治初期の日本の防衛は、当然ですが「ほとんど何も用意出来てない状態」との印象を持っていた。卓話では「自由で開かれたインド太平洋」構想に触れられましたが、「ほとんど何も用意できていない状態」のような印象があり、この点に関し明治と今を比べることとした。）

★第7章 国軍の建設

日本陸軍創設の恩人と言えはまず第1に大村益次郎であろう。（中略）大村の没後、收拾すべからざる混乱に陥っていた兵部省に現れ、わが軍制の基礎を確立し、国軍建設の業に着手したのは山県有朋であった。（中略）

明治5年11月山県の徴兵論は廟議のまま採用するところとなり、画期的な全国徴兵の詔が発せられることとなった。（中略）

山県は明治28年4月の奏議に「明治初年、臣乏しきを陸軍の長官に承り、聖旨を奉じて始めて徴兵の制を建てるや帝国を分つて6軍管区となし、各管区に1鎮台を置き、各鎮台に1軍団を備えんことを期したり。蓋し1軍団は即ち2師団にしてその兵員およそ3万5千人なり。即ち6軍団は12師団にしてもしこれに加うるに予備兵と後備兵を以てすれば、国家有事の日に際し、立ち所に30万余の兵力を挙ることを得るなり」とある。

なお、この山県の理想とする12師団の編成が実現したのは日清戦争を終えた翌年明治29年以降のことである。

★第8章 憲法発布

国会開設は明治23年と決定し、自由党、改進黨はいち早く成立したが、憲法はまだ影も形もなかった。（略）明治15年3月、伊藤博文は先進国の制度を調査するため欧州へ出発した。

明治19年憲法に関する調べが済んで起草にとりかかった。（中略）明治天皇は伊藤の捧呈した憲法稿本をご嘉納

あそばされ、新たに枢密院を設けて、ここに国家の元勳及び練達の士を集めた。（中略）枢密院は明治21年5月に開院され、憲法会議は5月8日から始まって12月17日まで毎週1回、隔週1回で続行された。明治22年2月11日紀元節を期して帝国憲法は発布された。

★第10章 日清戦争前記



(Google Mapより作成)

朝鮮半島はその地形上、日本列島に対して短刀を擬したような恰好をしている。もしこの地がシナやロシアに占領されたとしたらその時日本はどうであろう。脇腹に匕首を当てられたようなもので絶えず生存を脅威されるであろう。朝鮮問題が明治史の殆ど全部を通じて終始重大問題を孕んだのは、この日本国家の生存という根本に触れたため、日清戦争も日露戦争も全く朝鮮問題を中心として惹起されたのである。（中略）

★日支開戦迫る

明治27年4月、朝鮮全羅道古阜県に乱民蜂起し（この徒を東学党と称した。中略）最早朝鮮の軍隊ではどう手の下しようもなくなった。朝鮮政府は清国に援助を求めることとなった。駐韓公使は（略）朝鮮政府の求めに応じ「属国の難を救う」と称し、（軍隊を）朝鮮に入らせた。（中略）朝鮮半島に清国の覇権が確立する日は即ちその利刃が日本帝国の脇腹に擬される日である。ここに至って国民の敵愾心は俄然として昂騰し、一戦辞せずの気運は全国的に高まっていった。

以上

◎明治初期と現在の防衛比較（会報担当者の私見）

	明治27年（日清戦争）以前	令和4年12月国家防衛戦略決定時
安全保障環境	清が朝鮮半島を占拠すると日本の生存の脅威となる。	2007年以降、中国は海軍力増強や領域拡張を進めている。（追想より引用）
軍隊	明治5年全国徴兵の詔。（明治29年頃国軍完成）	自衛隊が憲法に基づく反撃能力を備えるなど防衛力の強化を図る。
憲法	明治22年2月11日帝国憲法発布。	現在の憲法に変更なし
防衛方針	清と戦争	日米同盟を基軸により多くの同志国・友好国との連携により、力による一方的な現状変更とその試みを許さないとの意思を明確にする。（追想及び我が国防衛の基本方針より引用）

## ◎近況報告「外国人人材」伊丹谷五郎会員

この3月にネパールスタッフとラオスに行きます。ラオスの日本語学校と連携を相談し、福祉法人の人材育成をお願いするためですが、ラオスの人口は約700万人、平均年齢約23歳で、外国人人材の取り合いが起こっているようですとのこと。

(会報担当より：伊丹谷会員は2019年ネパール・カトマンズに介護人材を育成する「ポプラ日本語学園」を創設し、国内では「学校法人ポプラ学園」、人材提供会社「株式会社ポプラネクサス」を運営しておられます。)

### ★ネパールとラオス位置図



### ★現地での人材募集と育成

#### (カトマンズ・ポプラ日本語学園 HP より抜粋引用)

ポプラグループでは日本で介護施設を複数運営する企業として日本語学校「ポプラ日本語学園」をネパールで開校。日本で働きたいと願うネパールの方、日本の介護業界はじめ、人材不足にお困りの日本の企業、そんな状況の中で、本当にいい人材を育てたいという思いからスタートしました。



日本に職を求めるネパールの方と、人手不足でお困りの日本企業の方々への橋渡しのお手伝いをさせていただきます。

ネパール国内の他の日本語学校と連携し、ひらがなやカタカナ等、日本語をある程度勉強した生徒で、介護領域に関心のある生徒を紹介してもらっている。加えて、これまでのネパール教育支援活動が広く認知さ

れているため、生徒自ら問い合わせがきている。校舎、教育の質、合格実績、日本的な指導等のブランドを今後とも発信していくことで、生徒から憧れられる学校を目指す。

日本に行き、介護現場で働く“リーダー”を育てることも目指している。試験に合格することにターゲットを置いたレベル別指導に加えて、会話や技術指導まで一貫した教育を行う。

(4つのポイント)

1. 実戦的な授業：ロールプレイや会話を重点的に
2. 規律ある指導：時間、挨拶、約束を厳しく指導
3. レベル別授業：各生徒の日本語力に応じた授業
4. 技術指導：特定な技能に対する指導

### ★国内での人材育成と提供

#### (株式会社ポプラネクサス HP より抜粋引用)

どこの介護施設もお話を伺えば、大抵は人が足りない…スタッフが辞める…とのお話が聞こえて来ます。

(中略) わざわざ介護業界でなくても違う業界で仕事をすれば介護の仕事をするより多くの給与がもらえる…そう考える日本人が多いのも事実でしょう。(中略)

私が働くポプラグループも御多分にもれず、以前はスタッフが足りない、残業、休日出勤をお願いし、何とか回していたのが実情でした。介護士を募集してもなかなか応募がない…これが実情なのではないでしょうか？そこでポプラは2009年、日本人介護士だけではなく、海外人材の力を借りることに舵を切ったのです。当時、まだ始まったばかりのEPA介護福祉士候補生としてフィリピンより1名来ていただきました。本当に何もかもが初めてでゼロからのスタートでした。

今現在のポプラで働く外国人人材はフィリピン、ネパール、ベトナム、中国、ミャンマー、サウジアラビア等々随分と多国籍になり、その数も90名になろうとしています。また受け入れる形も「EPA」「技能実習」「留学生」「特定技能」と全ての受入れ体制を網羅しています。

また2019年には、さらなる良い外国人介護人材を育成の為、ネパールに「ポプラ日本語学園」を開校、また2021年4月には池田市にて開校した介護福祉士養成学校もでき、将来の外国人介護士の育成にも着手しました。



「ポプラ介護福祉士養成学校」の校舎は旧・伏尾台小学校をリフォームした3階以上

次回 第390回 通常例会 2023年4月12日(水)  
会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00